

いま、田島ヶ原が危ない —このままでは田島ヶ原がカラカラに乾いてしまう—



写真1 早春の田島ヶ原



写真2 サクラソウの株数調べ

田島ヶ原の春はノウルシの黄とサクラソウの紅で色鮮やかに染まり、自然の息吹が感じられます。その頃、特別天然記念物の

指定地では、かがみ込んでサクラソウを丹念に数えている人々の姿が目につきます。(写真1、2)

数えることで、指定地にサクラソウがどれほど生えているのかが分かるし、毎年数を比べれば、サクラソウが増えたのが減ったのを知ることができます。このようなことを知るために、1965年からサクラソウの株数を調べているのです。調べたサクラソウの株数を図表にしてみると、田島ヶ原ではサクラソウが増えたり減ったりしながらも全体としては増えていることや、現在は約190万株のサクラソウが生えていることなどが分かります。(図1)

図をざっと見ると、田島ヶ原には多数のサクラソウがあり、増えてもいるので、そのサクラソウが無くなる心配などないように思えます。しかし、図をじっくり見ると心配なことが見つかるのです。それは、2003年にはサクラソウが最も増えて約230万株になりましたが、翌年の2004年に

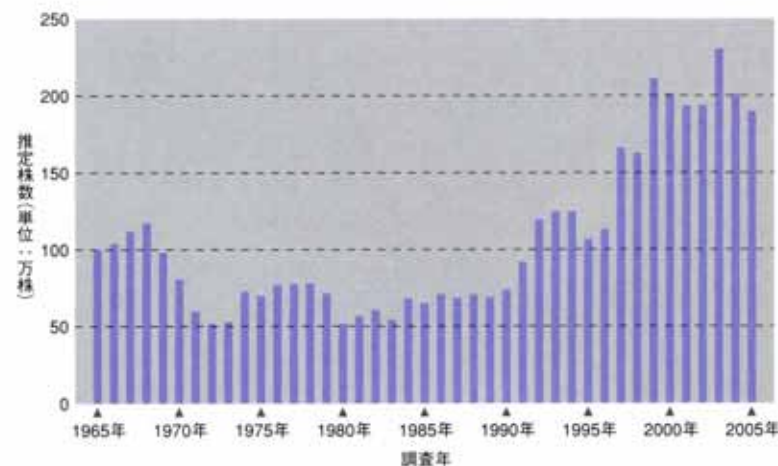


図1 田島ヶ原におけるサクラソウの株数の変化

は約200万株に、その翌年の2005年には約190万株と減って、2003年の82%にまで急に減ったことなのです。

図を見ると、1969年から1972年にかけてもサクラソウは著しく減っています。この時は指定地周辺が盛んに開発され、また、地下水を盛んに汲み上げたため、その影響で指定地に土地が乾くなどの変化が起きました。こうして

指定地の環境が変化したことで、サクラソウは生活しにくくなって減ったのです。その後、指定地周辺での開発が終わり、また、地下水の汲み上げが制限されると、指定地の環境は次第に元に戻り、サクラソウは再び増え始めました。

近年の観察で、しばらくの間雨が降らないと指定地では土地が著しく乾いてしまうことが分かったので、このことが2004年と2005年にサクラソウが続けて減った原因と考えられています。1969年から1972年にかけてサクラソウが減った時の原因と同じく、指定地が乾くことだったのです。

では、指定地が乾くようになった理由は何でしょうか。その訳を調べているうちに、指定地を囲んで「さくら草公園」が造られていたり、指定地の南方に「彩湖」が建設されていたりして、以前とは指定地周辺の様子がすっかり変化していることに気がきました。この変化が指定地の乾燥を引き起こしているらしいのです。(図2)

「さくら草公園」の場所は、元は湿地でした。人々の憩いの場となる芝生広場を造るため、土地が乾きやすいように排水施設を設けたのです。ところが芝生広場と隣りあった指定地も一緒に乾くようになったのです。(写真3)

「彩湖」は荒川の洪水を調節して災害を防ぐための大きな人造湖です。周りには洪水を調節する囲繞堤(いじょうてい)と呼ばれる巨大な土手が築かれています。指定地のあ

る田島ヶ原一帯もこの囲繞堤によって取り囲まれているのです。以前は荒川があふれるたびに多量の水と泥が押し寄せて指定地を湿地にしていたのですが、現在では囲繞堤で取り囲んだ内側には滅多に荒川の水が入らないように造られているのです。指定地を湿地にしてきた多量の水と泥が荒川から運びこまれることがなくなって、指定地は乾くようになったと考えられるのです。

この他にも、「アスファルト舗装の道路」が多数造られたために、以前は地中にしみ込んで指定地を潤していた雨水が、現在では舗装道路の表面をぬらすだけで外に流れ去ってしまうことなど、いろいろな理由があります。これらをま





図2 田島ヶ原の周辺の様子

『荒川第一調節地 川とくらしの未来を見つめて』国土交通省荒川上流河川事務所 平成16年3月 より転載

とめると、指定地周辺の姿を人間が変えたことが指定地の乾燥を引き起こしているといえるのです。(写真4)

それならば、どうすればサクラソウが減るのを防ぐことができるのでしょうか。1969年から1972年にかけてサクラソウが減った時と同じように、指定地に乾燥を引き起こした原因が無くなれば良いのですが、今回は原因が『さくら草公園』や『彩湖』なので、大切な役割を担って建設されたものが無くなることはないでしょう。

『さくら草公園』や『彩湖』を取り壊して指定地周辺を元の姿に戻せないとすれば、指定地に水を注いで乾燥しないようするという考えがあります。じつは、1969年から1972年



写真3 『さくら草公園』の芝生広場



写真4 雨水を流し去る舗装道路と排水施設

にかけてサクラソウが減った時に、汲み上げた井戸水をスプリンクラーを使って散水したことがありました。この時は、4.2haもの広い指定地

のため、散水に長い時間がかかったり、多量の井戸水が必要となったことと、水を最も必要とする夏場に背丈の高くなったオギが散水を妨げたことで、この方法は失敗ということになりました。井戸水のかわりに近くの鴨川や荒川の水を使うことも検討したのですが、欠点があって今の

ところ行われていません。サクラソウのように湿地が生育に適している植物を湿生植物といいます。田島ヶ原は湿生植物の宝庫で、サクラソウを始め、ノウルシ・ヒキノカサ・シロボウエンゴサク・ムラサキケマン・ツボスミレ・チョウジソウ・ムラサキサギゴケ・トダスゲ・オギなど、指定地で観察できる植物の大部分が湿生植物なのです。これらの湿生植物は湿地では元気で、湿地が乾くと弱って生育できなくなります。したがって、指定地が乾燥する

ようになったということは、サクラソウが減るだけでなく、他の大部分の植物にとっても消滅の危機に直面していることなのです。(写真5)



トダスゲ



ムラサキサギゴケ



チョウジソウ



ムラサキケマン

写真5 田島ヶ原が乾くと姿を消す植物たち

指定地を乾燥させない方法が見付からないために、現在の指定地は雨水だけで湿地が維持されています。雨次第の天候まかせという不安定な環境のもとで、サクラソウや他の湿生植物は生育しているのです。サクラソウは2004年と2005年に続けて減っていますが、2006年はどうなることでしょう。天候に恵まれて、増えることを祈るばかりです。

(資料協力 国土交通省荒川上流河川事務所)

埼玉野生植物研究所 磯田洋二(さいたま市文化財調査専門員)

さくらそう通信 21号 平成18年3月20日

編集・発行 さいたま市教育委員会

さいたま市浦和区常盤6-4-4 ☎048-829-1723